



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

小平学園西雲母保育園



テーマ【 表現・音 】

設定した理由・背景

日々の生活に根付いている「歌」の活動が好きで、生き生き歌っている姿から、意見や話し合いを通して探求を深めていけたらとこのテーマを選びました。

用意した環境設定

定期的にクラスで活動を深める為に他クラスにも協力してもらい、「すくわくの時間」には一時保育室を貸してもらい、一クラスで活動できる環境を整えました。また、鈴やタンバリンなど身近な楽器だけでなく、木琴やグロッケンなど、普段あまり目にしない楽器を用意した事で意欲的に挑戦する心を育てたいと思いました。

活動のあゆみ

2月4日から、午前中1時間程度「すくわくの時間」と命名し、歌の練習から始めました。始めに実際に歌う歌の歌手の方の演奏を動画を見てイメージを掴んでからのスタートとなりました。歌声が自分たちとどう違うのか。どんな姿勢だときれいな声が出るのか。どんな歌い方だと楽しそうに見えるのかなど、子ども達から様々な意見が飛び交いました。後半は歌手の方が他のメンバーの方と色々な楽器を使用している事にも注目し、楽器演奏へと繋げていきました。最終的に歌手の方をお呼びし、実際に園児を呼んで一緒に歌う機会を作って頂き合奏する事をまとめとして子ども達にも意識しながら当日を迎えるように促した。当日は卒園式で歌った歌も歌い、希望参加で来てくださった年長保護者の方にも成果を見ていただくことが出来、本人たちも満足そうな表情をしていました。全体の活動を通して「〇〇の歌い方が素敵だった」「〇〇の鍵盤ハーモニカが上手」など、お互いを認め合う言葉が多く出ていた事が印象的でした。

✽探究活動の実績✽

①どんな問いかけから始めましたか？

・実際に歌う歌を動画で確認し、子ども達に率直な感想を聞きました。それを踏まえ、自分たちがどんな声綺麗だと思うかというイメージしやすい事から始め、各々意見を言いやすい環境づくりを意識しました。

↓

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

・子ども達から出た意見を実現する為にどうすればいいかを毎回子ども達の声から拾いながら問いかけていきました。

↓

③活動中の子どもたちの姿・声、

子ども達同士の関わり・対話

・毎回「すくわくの時間」にひとつ子ども達に投げかけをするよう意識し、都度一人一人に意見や気持ちを聞く機会を作りました。歌い方ひとつ、並び方ひとつも子ども達から出た言葉を採用していくと、リードする子、意見を採用されず泣く子、不安な気持ちを受け止めてもらう子等様々な姿が見られました。時間にゆとりを持たせていたのでなるべく保育士が介入せず、時間がかかっても自分たちで解決していく事を大切にしました。

↓

④終わりの時期の姿・まとめ

・週一回を目標に「すくわくの時間」と命名し、毎回活動の前に挨拶をする事を意識していた事から「明日すくわくだね」と張り切る姿や日々の生活の中で歌を口ずさむ子がいました。楽器演奏も興味津々で自由に触る時間を設定すると知っている曲を木琴で演奏したり、他の個の演奏をのぞき込んでみたりする姿が見られ、保育士の意図と共有でき嬉しい気持ちになりました。

・週一回を目標に「すくわくの時間」と命名し、毎回活動の前に挨拶をする事を意識していた事から



演奏会を開き、成果発表をした様子



鍵盤ハーモニカを順番に練習している様子



音楽に合わせて合唱をしている様子

まとめ

タイトな期間での活動ではありましたが、年長になると各々興味のある活動に期待する姿も見られ、全体的に集中力もあり意欲的に参加する姿が多かったように思います。次年度も今年度の成果発表で見せた姿を見た子ども達が興味を持ち、活動の中に無理なく溶け込んでいけるものになっていくといいなと感じます。



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

小平学園西雲母保育園



テーマ【 音、光 】

設定した理由・背景

日々成長していく子ども達の姿から、生活の中で聞こえてくる音や光に反応して不思議そうな表情をしている様子を見て、その姿を探究活動に取り入れたいと思いました。

用意した環境設定

室内、室外で、遊ぶ時に子ども達が興味を持ちそうな言葉かけや道具を用意し、意図的に関心が高くなるように配慮しました。

活動のあゆみ

2月7日から、遊びの設定の中で探究活動にあてはまる日を選びねらいに沿った活動に注目しながら遊びました。身近にある自然物や制作活動の中で子ども達の表情や行動に注目しながら楽しみました。

✧探究活動の実績✧

①どんな問いかけから始めましたか？

- ・「なんだろうね？」と声掛けをし、子ども達が興味を持って関わっていけるよう配慮しました。

↓

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

- ・活動の際に容器や自然物のある公園等に行き、より自然な形で興味を持てるよう配慮しました。様々な擬音を使いながら落ち葉を踏みしめたり、どんぐりを転がしてみたり、容器に入れて鳴らしてみたりと思い思いに試してみる姿がありました。

↓

③活動中の子どもたちの姿・声、

子ども達同士の関わり・対話

- ・「シャカシャカ」「コロコロ」「あ！(影)あった！」と指差しをしてアピールする等思い思いに活動を楽しんでいました。

↓

④終わりの時期の姿・まとめ

- ・自分の存在だけでなく相手の存在も意識し始める事で一人遊びから譲り合ったり、顔を見合わせて笑い合ったりする姿に探究活動を通してより子ども同士のつながりを感じられる時間となりました。

・週一回を目標に「すくわくの時間」と命名し、毎回活動の前に挨拶をする事を意識していた事から「明日は誰と遊ぶのか」を話し合ったり、口ずかす歌を歌ったりする姿も見られました。



戸外で影探しをした様子



制作で花紙とビニール袋で音を楽しんでいた様子



落ち葉を踏みしめている様子

まとめ

この年齢でも、大人のちょっとした働きかけや設定の仕方で探究活動は如何様にも変化していけると改めて感じました。子ども達の探求心を大切に、次年度につなげていけたらと思います。